

実践事例

学年	5年	
教科名	国語科	
単元名	新聞を読もう	
指導計画 (全3時間)	1	複数の新聞の一面を見比べて、気付いたことや疑問に思ったことを出し合う。
	2	2つの記事を比べて、伝え方による読者の印象の違いについて話し合う。
	3	選んだ記事を読み、意見や感想をノートに書く。
本時の目標	記事を選んで読み、意見や感想を交流し、新聞を読むことへの意欲を高めることができる。	
防災の視点(※)	(B)複数の記事を見比べる際、災害に関する記事を取り上げる。	

本時の展開(3/3)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>2. 見出しや写真に着目して新聞を読み、興味を持った部分を選ぶ。</p> <p>3. 選んだ部分を読み、意見や感想をノートに書く。</p> <p>4. 友達と意見や感想を交流する。</p> <p>5. 学習を振り返る。</p>	<p>○防災についての新聞記事を配らせて、どんな記事が書かれているのか把握させる。</p> <p>○それぞれの記事を読んだ自分の考えや意見を書かせ、実生活に関連させてどのように取り組めばいいのか考えさせる。</p> <p>○友達の見聞を聞き、大切だと感じたところはメモをさせる。 ※防災に興味や関心や持ち、自分の考えや意見を友達に伝えることができる。</p>	<p>●防災に関連した新聞記事</p>

実践事例

学年	5年	
教科名	国語科	
単元名	想像力のスイッチを入れよう	
指導計画 (全7時間)	1	全文を読み、筆者の考えに共感したことなどをまとめる。
	2	文章全体を3つのまとまりに分け、事例と筆者の意見(考え)を整理する。「想像力のスイッチを入れる」とはということか、筆者の考えをまとめる。
	3	
	4	
	5	
	6	筆者のものの見方で新聞記事を読み、記事の報じ方について自分の考えをもつ。
	7	メディアとの関わり方について、自分なりの考えをまとめ、友だちと交流する。
本時の目標	筆者のものの見方を活用して新聞記事を読み、新聞記事の報じ方について自分なりの考えをもつことができる。	
防災の視点(※)	(B)自分とメディアとの関わり方について考えさせる際に、災害関連の情報を取り上げる。	

本時の展開(6/7)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p>2. 前時までの学習をふり返り、「想像力のスイッチ」を入れる4つの観点を確認する。</p> <p>3. 「想像力のスイッチ」を入れて、新聞記事を読み、自分の考えをまとめる。</p> <p>4. グループで意見交流をする。</p> <p>5. 全体で意見交流をする。</p>	<p>○次の4つの観点を板書し、意識させる。 「事実かな、印象かな。」 「他の見方はないかな。」 「何がかくれているかな。」 「まだわからないよね。」</p> <p>○どの観点で記事を読んでいったかがわかるよう、4つの観点を色分けし、サイドラインを引かせる。 ○4つの観点で記事を読み、読み取ったことに対する自分の考えをまとめさせる。 ※防災関係の新聞記事を読み、自分の考えをまとめる。</p> <p>○友だちの感じ方や考え方を聞き、共通点や相違点に気づかせる。</p>	<p>●災害関連の新聞記事</p>

第5学年1組 社会科学学習指導案

第5学年1組 30名
授業者 佐野 勝規

1 単元名

情報社会に生きるわたしたち ―「情報をつくり、伝える」― 【日本文教出版】

2 単元目標

- ・我が国の産業と情報との関わりについて、放送、新聞などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることなどを理解するとともに、聞き取り調査や映像、新聞など、各種の資料で必要なことを調べ適切にまとめる技能が身に付くようにする。【知識及び技能】
- ・情報を集めて発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子をとらえ、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現する力を育てる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・情報をつくり伝える仕事について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追求するとともに情報社会に生きる一員として、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことの大切さについて考えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、社会科や総合的な学習の時間において、時事のニュースや地域社会の取り組みに興味・関心があり、意欲的に調べたり、発言したりしようとする。これまで学んできた南あわじ市の産業や文化の特色や、農業・漁業に携わる人の工夫などにも触れ、調べたことを発表しながら学級の仲間と知識を共有してきた。また、地域の祭りの話や、普段の生活の話などから、自分たちが暮らしている地域の産業や文化を大切にしていきたいという姿勢を強く感じる。また、本校では朝の会において話し合い活動を取り入れている。話し手に対する質問の仕方や答え方が定着してきているが、質問者が話し手に対して一つ質問をして答えてもらうという状態であり、「他の人はどう思いますか。」という全体に拡げる発言があっても、話の深まりが弱い。そのため、この授業での話し合い活動において、質問者が全体に意見を求めるような発言から話が拡がり、深まっていくよう期待している。

【教材観】

本単元は、「放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり」について調査したり、資料を活用したりして調べることを進める。また、情報化の進展は国民生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを主な学習内容としている。

本教材では、まず情報とはどのようなものかを確認する。次に、どのようなメディアで情報を得ることができるかを自分たちの生活をふり返りながら、様々なメディアの種類や役割について話し合う。そして、それぞれのメディアが様々な情報をどのように扱い、伝えているのかということメディアの仕事という視点で捉える。これらのことからメディアの仕事や役割を知るためにどのようなことを学習していけばよいか、児童自らの発言から学習計画を立てていく。

学習計画を立てる際、多くのメディアについて知りたいという児童がいると考えられるが、文字や写真など手に取って見ることが出来る新聞を始めに扱うことにする。まず、新聞からの情報とはどのようなものがあるのか。次に、新聞ができるまでの行程を調べることで、どのようにしてわたしたちのもとへ届けられるかを知ることができる。さらに、他社との内容を比較することにより、表現方法などの伝え方や間違った記事が載ることによる影響など、新聞の情報がわたしたちに与える影響を話し合い、どのように利

用し、関わっていけばよいかについても考えることができる。そして、新聞での学習を通して、メディアそれぞれのメリットを知り、情報を適切に活用しながら生活していることに気づかせる機会となる教材である。情報の受け手としてだけでなく、送り手が情報を作り、発信するときの工夫や努力にも触れることで、情報についてより深く考えることができると思う。

【指導観】

小単元の導入では、情報の意味をおさえ関心をもたせるとともに、学習課題を考えさせる。そして、メディアの特徴をおさえ、学習計画へつなげる。学習計画づくりでは、様々なメディアの種類の中でも、手に取って内容をみることができたり、他社と比較が容易であったりするのは新聞であることを気づかせるようにする。次に、新聞にある情報とはどのようなものがあるのかを知るために、記事のカテゴリーや書かれ方をよく確認させて、ノートにまとめ、班で気づきを共有させたい。そして、多くの情報が掲載された新聞が一日で消費者に届けられる仕事の早さなどにも注目させ、どのようにして作られ、届けられているのかを本やインターネットを利用して調べ学習を行う。そして、同じ日の神戸新聞と徳島新聞を比較させ、始めに気づいたことを個人でノートにまとめ、後に班で気づきを共有させる。この共有した気づきをもとに、児童には、書かれている内容や書かれ方が異なっていることで、消費者にどんな影響を与えることになるのかを考えさせる。出し合った考えから、わたしたちは新聞をどのように利用し、関わっていけばよいかについて考えさせる。児童には自分なりの考えを持たせ、他の意見と比較することで、情報の受け手として、気をつけなければならないことがあるということに気づかせたい。新聞での学習を生かして、他のメディアについても調べたいという意欲につながっていくことを期待する。

4 観点別の評価規準

【知識・技能】

- ・我が国の産業と情報との関わりについて、放送、新聞などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることなどを理解し、聞き取り調査や映像、新聞など、各種の資料で必要なことを調べ、適切にまとめる技能が身についている。

【思考・判断・表現】

- ・情報を集めて発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子をとらえ、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現しようと努力している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・情報をつくり伝える仕事について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追求しようとするとともに情報社会に生きる一員として、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや、送り手として責任をもつことの大切さについて考えようとしている。

5 単元計画（全7時間）

「情報をつくり、伝える」

- | | |
|--------------------|----------|
| (1) 情報社会に生きるわたしたち | [1時間] |
| (2) メディアの特ちょうとは | [1時間 本時] |
| (3) 新聞の情報 | [1時間] |
| (4) 新聞ができるまで | [1時間] |
| (5) 情報が届くまで | [1時間] |
| (6) 伝え方とえいきょう | [1時間] |
| (7) メディアとわたしたちの関わり | [1時間] |

6 本時の目標

メディアの特徴を話し合うことから、情報の伝え手に関心を持ち、学習計画を考える。

7 防災の視点 (※)

災害時におけるラジオのよさや働きを調べることを通して、ラジオのメディアとしての特色をとらえるとともに、災害時におけるメディアの活用の仕方について考える。

8 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 情報はどのようなメディアから得られるかを考え、発表する。</p> <p>2 メディアの特徴を班で話し合い、全体で発表し、本時の学習課題を作る。</p>	<p>○身近にある新聞やポスター、テレビ、パソコン、スマートフォン、ラジオ等を挙げさせる。</p> <p>○自分なりの考えをワークシートに書かせる。</p> <p>○各メディアの長所・短所を挙げさせ、それぞれのメディアの特徴を確認する。</p> <p>※メディアの一部が災害時にも役立つことに気づく。</p>
<p>情報のことをもっとくわしく知るためには、どのような学習をしていけばよいか。</p>	
<p>3 各メディアのことをもっとくわしく知るために、これからどのような学習をしていけばよいかを班で話し合う。</p> <p>4 話し合ったことを発表し、これからどんな学習を進めていくか、全員で計画を立てる。</p> <p>5 授業のふり返しをする。</p>	<p>○新聞、テレビ、ラジオ、インターネットなどの情報は、どんな特長があって、どんな時に利用するかを考えることで、今後の学習計画を立てやすいことを伝える。</p> <p>○情報が人に伝えられるとき、どんな準備がされているのかを考えさせる。</p> <p>○児童が考えた今後の学習計画の流れを、板書に箇条書きで示す。</p> <p>○どのメディアを取り上げて学習していけばよいかを考える。</p> <p>○ワークシートに、これから学習していきたいことを書かせる。</p>

9 本時の評価

- ・それぞれのメディアの長所・短所をふまえ、自分なりの考えを書くことができたか。
- ・学習計画から今後の学習の見通しを持つことができたか。

第5学年1組 社会科 学習指導案

平成31年1月30日(水) 5校時
授業者 浅井 裕治

1 単元名 「国土の環境を守る」－自然災害とくらし－

2 単元目標

【知識及び技能】

自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

自然災害に関する学習課題について主体的に調べ、解決しようとし、自分や周りの人たちの命やこれから起こりうる災害について考えようとする態度を養う。

3 指導にあたって

5年生では、「日本の国土と人々のくらし」において、日本の国土をはじめ気候、台風などについて学習した。その際、学習課題に対して、熱心に調べたり、資料から課題解決に向けて自分なりの考えをまとめ、発表したりするなど意欲的に授業に取り組んでいた。特に防災関連の学習については、本校で進めている防災教育の成果もあって地震や津波に関する基本的な知識は身に付いている。また総合的な学習の時間においては、1年を通して、地域の防災体制を考える単元を構成して、学習を進めている。子どもたちは身に付いている知識や技能が、地震や津波に対するものに偏っており、地震、津波以外の災害に対する意識は薄い。また今後、発生するとされている南海トラフ地震については、自分事としてとらえている児童も多く、本単元に対しては積極的に取り組むことが考えられる。しかし、将来に向けて、自分たちがこの福良で生活をしていくかどうかは定かではなく、日本のどこにいても災害が起こるものとして考えておかなければならない。避難訓練や引き渡し訓練などでは、災害の想定によって取り組もうとする姿勢に差もある。このような現状から広く自然災害についての防災意識を持ち、考えられるようになることを期待する。

本単元の学習は、既習内容である「公害の防止について」、「森林資源の保護について」と併せて、国土の自然環境と国民生活との関連を学習するもので、広く国土の環境に関する内容を身に付けることを目的としている。その中でも自然災害への対応については、これからの子どもたちの将来を見据え自分の命と国民生活を脅かす直接的な課題として社会的にも大きく取り上げられている。そのような中で、自然災害と向き合い、様々な対策をとっている地域の人々は、地域の自然条件に合わせて、様々な災害への対策を進めており、それぞれの地域の特性に応じて、様々な工夫や努力によって国民生活を守る活動に従事していることを理解させる。また、それらの理解を進めるために、身近な写真やニュース等で見たことのある大きな災害の資料などから、災害時の対応やその後の生活、被災の実態など、

様々なことを想像し、考え、学ぶことができるようにする。さらに、カリキュラムマネジメントの視点から総合的な学習「他地域での防災の取り組みについて」にもつなげ、日本の様々な災害対策を知り、災害に対する自分たちの在り方についても考えるきっかけづくりにつなげると考える。

本単元は、新学習指導要領、第5学年の内容項目「アの(ア)及びイの(ア)」を基に構成している。内容は、「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されている。導入では、兵庫県で起きた阪神淡路大震災をはじめ、近年発生している様々な種類の自然災害の写真から、学習課題「なぜ、日本は自然災害が多いのか」を導き出したい。また地震や津波はもちろん、理科ですでに学習している「台風と気象情報」や最近の日本各地で発生している様々な災害から自然災害全般へ目を向けさせたい。さらに資料から課題を見出し、災害の種類、発生の位置や時期などについて調べ、それぞれの地理的位置や地形などによって気候が異なることなどに目を向けさせ、自然条件との関連に気づかせたい。次に災害とわたしたちの生活との関わりとして、災害が社会に与える影響について被災後に考えられる生活の中から課題を見出し進めていく。そして、わたしたちができる備えについて、国や県の防災、減災に対する取り組みや災害時の情報の収集について知り、最後に自分たちができることを考え、まとめにしていきたい。

4 評価規準

【知識・技能】

- ・国土の気候や地形の位置関係が災害と関係していることを理解している。
- ・我が国でおこるさまざまな自然災害を防止するために国や県などの自治体が地域にあった対策や事業を進めていることを理解している。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・学習課題や学習計画について考え、表現している。
- ・災害の種類や発生の位置や時期、防災対策など、国土の自然災害の状況を調べ、自然条件との関連をふまえながら考えたことを表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・自然災害について関心をもち、主体的に課題を解決するために意欲的に調べようとしている。
- ・自然災害防止の重要性や国民一人一人が防災意識を高め、協力することの大切さを考えようとしている。

5 単元計画(全11時間)

①課題設定と学習計画・・・1時間(本時)

②日本の自然災害を調べよう・・・2時間

- ・日本の自然災害を調べる
- ・自然災害と国土の特色の関係を考える

③災害後の日本を考える・・・4時間

- ・被災した人たちの生活を考える
- ・産業への影響を考える

④自然災害に備えるために・・・4時間

- ・国や県の防災対策の取り組み
- ・災害時の情報について知る
- ・自分にできることを考え、発表する

5 単元構成

大単元の導入	
日本は、テレビや洗濯機、自動車の普及など、だんだんと便利になってきて、暮らしが変わってきた。しかし、自然環境が悪くなってきたことによってわたしたちの暮らしに影響が出てきている。また、東日本大震災や阪神淡路大震災などの自然災害も頻繁に起こるようになってきている。そのような中で、自然環境とわたしたちの暮らしには、どのような関わりがあるのだろうか。	

中単元	① 生活環境と暮らし ② 森林資源と暮らし ③ 自然災害と暮らし
-----	----------------------------------

導入・課題設定	
小単元課題:なぜ、日本は自然災害が多いのか①	
○写真から自然災害の多さを知り、なぜ多いのかについて予想し、学習計画を立てる。	
<ul style="list-style-type: none"> 地震は、日本の地形が関係しているかもしれない。 日本の気候は、それぞれで特徴があると習った。 いろいろな災害について調べればわかりそうだ。 	

「日本の自然災害について調べよう」	
小単元課題:なぜ、日本は自然災害が多いのか②	
○日本に自然災害が多い理由を調べ、自分の考えをまとめる。	
<ul style="list-style-type: none"> 日本の下にプレートが多く、これによって地震が起こっているだろう。 山も多く活火山もあることから噴火の心配もある。 雪が降る地域もあるので、雪の被害も考えられる。 雨が多く、洪水などの水害が多いことがわかった。 理科で台風と気象のことがあったけど、日本は台風が多かった。 阪神淡路大震災が本当に大きな災害だった。 	

自然災害は、地形や気候の特色など日本の自然環境と関わりがある。

「災害後の日本を考える」	
小単元課題:自然災害はわたしたちにどのような影響をもたらすのか	
○資料から災害後の生活への影響について考え、自分の考えをまとめる。	
<ul style="list-style-type: none"> 避難所ではこれまでの生活ができなくなる。 もとの生活にもどるまでには時間がかかりそうだ。 台風の時、コンビニで品物がなくなっているのを見たことがある。 道路が壊れたり、橋が通れなくなったりしたら、食料等はどうやって運ばれるのだろう 	

「自然災害に備えるために」	
小課題:自然災害に対して、どのような備えがされているのか	
○国や県の防災対策について調べ、自分たちができることについて考え、まとめる。	
<ul style="list-style-type: none"> 非常用の食料を備蓄していると聞いたことがある。 訓練のときに自衛隊も参加していたよ。 町中に防災の備蓄倉庫がある。 家でも非常持ち出し袋があるよ。 	

7 本時の目標

自然災害の写真や年表から気づいたことを話し合い、学習課題を設定し、学習計画の見直しをもつ。

8 本時の展開

学習活動及び予想される児童の反応等	指導上の留意点(○)・評価(●)
<p>1. 写真や年表を見て、災害の種類や発生場所、時期について考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 阪神淡路大震災 ・東日本大震災 熊本地震 ・大阪北部地震 ・北海道胆振東部地震 ・西日本豪雨 ・平成16年台風23号 桜島噴火 ・口永良部島噴火 	<p>○身近に起こった阪神淡路大震災の写真から順に提示し、種類や地域も異なることについて気づかせる。</p> <p>○写真のすみわけについて災害の種類や発生場所、時期について分かる範囲でワークシートに記入するよう指示する。</p>
<p>2. これらの災害関連資料から疑問や気づいたことについて話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな災害が起こっているな。 なぜ地震が多いのか。 最近になって災害が増えた。 	<p>○気づいたことに対して経験や既習の知識を生かして自由に発言するよう促す。</p> <p>○班で出た意見を集約し、いくつかの意見をまとめて発表させる。</p> <p>●自分なりに課題を見つけようとしているか。</p> <p>[ノート]</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">なぜ、日本は自然災害が多いのか。</div>	
<p>3. 自然災害が多いわけについて予想し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 温暖化が関係しているかもしれない。 プレートが多いと聞いたことがある。 日本各地に四季があって、それぞれで気候が違うからかもしれない。 	<p>○発表については、クラス全体に聞こえるように大きな声で発表させる。</p> <p>○予想に対する付け足しや反論などについても積極的に発表させる。</p> <p>○予想した理由を明確にさせることで、調べる視点をはっきりさせる。</p>
<p>4. 課題解決に向けた学習計画を立てる。</p>	<p>○調べる内容を明確にし、課題解決に向けた学習計画の見直しを持たせる。</p> <p>●課題に対する学習計画の見直しを立てることができたか。</p> <p>[ノート・発表]</p>
<p>5. 学習計画の内容をたしかめ、次時につなげる。</p>	<p>○次時に行う内容について、課題を念頭に置いて活動するよう指示する。</p>

実践事例

学年	5年	
教科名	算数科	
単元名	比べ方を考えよう	
指導計画 (全12時間)	1	数量を比べるときに割合を用いて比べる
	2	割合を求める式について考える
	3	割合を百分率で表す
	4	基準量と割合から比較量を求める
	5	比較量と割合から基準量を求める
	6	和や差を含んだ割合の場合の計算
	7	学習内容の習熟
	8	割合を表すグラフについて考える
	9	資料の数量の割合を帯グラフや円グラフに表す
	10	グラフからの割合や絶対量の読み取りと問題の解決
	11	学習内容の理解
	12	発展問題
本時の目標	グラフから、割合や絶対量を読み取り、問題を解決することができる。	
防災の視点(※)	(B)自然災害の資料を取り上げ、グラフに表すことで、日本の災害の割合について知る。	

本時の展開(10/12)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 既習の帯グラフ、円グラフを振り返る。	○既習のグラフの表し方や、どのような場合に用いると有効であるかを簡単に振り返る。	●地震、津波、水害などの資料
2 本時の問題をとらえる。	○2つの円グラフと帯グラフの共通点や相違点を見つけさせる。 ※資料を見てどの災害が一番起きているのかを知る。	
3 円グラフや帯グラフから割合や絶対量を読み取る。	○目盛りの読み方、円グラフの形の見方、帯グラフでの部分と部分の比べ方などを指導する。	
4 考えを発表する。	○扇系の形で全体と部分の関係が視覚的にとらえやすいという円グラフのよさを明確にさせる。 ○基にする全体の人数が異なれば、割合が同じでも絶対量が異なることや、基準量が同じであれば割合だけで比較できることを明確にさせる。	

実践事例

学年	5年	
教科名	理科	
単元名	台風と気象情報	
指導計画 (全2時間)	1	台風と気象情報
	2	
本時の目標	台風の動きと天気の変化に興味を持ち、自ら気象情報を収集したり、台風による災害について生活経験を想起したりしようとする。	
防災の視点(※)	(A) 台風の特徴やそれに伴う災害についての考えを持つことができるようにする。	

本時の展開(1・2/2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 台風が来た時の様子を思い出してみよう。	○台風が来たときの経験を思い出させ、自由に発表させる。	●天気に関する資料
2. 台風の動きと天気の変化はどのようになっているのか、予想をたしかめる手立てを考える。	○様々な調べ方を出すよう促す。	
3. 資料を収集し、結果を発表し、話し合う。	○発表をまとめ、台風が来ることによって、強風や大雨などが降り、災害が発生することがあることをおさえる。	

実践事例

学年	5年	
教科名	理科	
単元名	雲と天気の変化	
指導計画 (全7時間)	1	雲と天気の変化
	2	雲のようすと天気の変化
	3	
	4	天気の変化のきまり
	5	
	6	
	7	まとめ
本時の目標	天気の変化などの気象情報に興味・関心をもち、自ら雲のようすを観測したり、気象情報を収集したりしようとする。	
防災の視点(※)	(A)雲の量や動きは天気の変化と関係があることをとらえるようにする。	

本時の展開(4/7)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 天気がどのように変化していくのかについて考え、予想し、発表する。</p> <p>2. 広いはんいの雲と天気の変化をどのように調べかを考える。</p>	<p>○身近な天気や変化について考える。</p> <p>○雲と天気の関係をおさえた上で、どのように天気が変化していくのかを調べるようにさせる。</p>	<p>●新聞等の天気図</p>

実践事例

学年	5年	
教科名	理科	
単元名	流れる水のはたらき	
指導計画 (全6時間)	1	流れる水のはたらき
	2	地面を流れる水
	3	川の流れとそのはたらき
	4	川とわたしたちの暮らし
	5	わたしたちの暮らしを守る
	6	まとめ
本時の目標	雨の降り方によって、増水により土地の様子が大きく変化することを理解する。	
防災の視点(※)	(A)大雨などで水の速さや量が増えると、災害が起こることがあることをとらえるようにする。	

本時の展開(4/6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 川を流れる水のはたらきをまとめる。</p> <p>2. 増水するときにはどんなときか考えさせる。</p> <p>3. 川の増水によって起こる災害について整理させる。</p> <p>4. 災害を防ぐ工夫をまとめる。</p>	<p>○川を流れる水にはどんな働きがあるのかを知る。</p> <p>○流れる水による災害を防ぐためにどんな工夫がされているのかを調べる。</p> <p>○堤防の決壊や護岸の崩壊などで川が氾濫することに気づかせる。</p> <p>※護岸ブロックや遊水池について知り、その働きについて触れる。</p> <p>○災害を防ぐ工夫や環境を守る工夫について知る。</p>	<p>●川岸の写真や映像</p>

実践事例

学年	5年	
教科名	家庭科	
単元名	ひと針に心をこめて	
指導計画 (全9時間)	1	針と糸を使ってできることをさがそう。
	2～5	手縫いにトライ！
	6～9	針と糸を使って、手ぬいをしよう。家庭生活を工夫しよう。
本時の目標	針と糸を使って、家庭生活を工夫しよう。	
防災の視点(※)	(B)裁縫や裁縫道具が災害時に役立つことに気付き、針と糸と布の物作りで被災地へ気持ちを届けられることを知る。	

本時の展開(6/9)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. これまでの学習を振り返る。	○自分の作品を見ながら、製作したときのことを思い起こさせる。	●手縫いのぬいぐるみ
2. 手縫いのよさを考える。	○手縫いのよさをグループでまとめ、発表し合う。	
3. 手縫いのよさを生かし、製作したい物や家庭でや災害時に役立つ物で製作できそうな物を考える。	○手縫いできそうな物と考えるときに、家庭で役に立つ物や災害時に役に立つ物が製作できないか話し合う。 ※実際、災害時に「裁縫用具セット」が活躍したことや支援物資のひとつになったこと、針と糸と布を使ったものづくりによって被災地に気持ちを届けることができたことを知らせる。	
4. 製作する物を決め、計画を立てる。	○製作する行程を考えて計画をたてるようにする。	

実践事例

学年	5年	
教科名	家庭科	
単元名	物を生かして住みやすく	
指導計画 (全8時間)	1	身の回りの物や生活の場を見つめよう
	2～7	身の回りをきれいにしよう
	8	物を生かして快適に生活しよう
本時の目標	身の回りの物の持ち方や使い方を見直そう。	
防災の視点(※)	(B)室内の整理・整頓をすることは、防災のためにも大切であることを知る。	

本時の展開(1/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. P. 44～45の写真を見て、感想や気づきを話し合う。	○「勉強部屋」を持たない児童も多い。写真は、「日頃勉強している場所」として児童に提示する。	新しい家庭【東京書籍】 P. 44～45の写真の拡大図
2. 問題点を探す。このままにしておくこと困ることをワークシートに書き、話し合う。	・必要な物がすぐに見つからない。 ・床のはさみなどでけがをする。 ・机で学習ができない。 ※地震などの影響で電気が消えてしまった時、必要な物がどこにあるかわからない。逃げる時にけがをするなど災害時にも困ることがあることに気付かせる。	
3. 物が散らかる理由を話し合う。	○理由については、意見を整理させて考えるようにする。	
4. どうなったらよいと思うか、またそのためにはどうしたらよいか話し合う。	○未然に防ぐ方法や家族がどのように家事を進めているかにも注目して考えさせる。	
5. これからの学習計画を立てる。		